

**2025年度
一般社団法人 CIEC 定時社員総会
議 案 書**

2025 年 8 月 22 日(金)
鹿児島大学 郡元キャンパス
(鹿児島県鹿児島市郡元 1 丁目 21 番 24 号)

【2025 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 議案】

第 1 号議案:2024 年度事業報告と 2025 年度事業計画承認の件..... P3

第 2 号議案:2024 年度決算報告承認の件

・財政報告..... P8

・貸借対照表..... P10

・損益計算書..... P11

・計算書類の注記表..... P12

・附属明細書..... P13

・監査報告書..... P14

第 3 号議案:2024 年度収支差額処分承認の件..... P15

第 4 号議案:2025 年度予算承認の件..... P16

【資料】

資料 1. 2024 年度活動報告と 2025 年度活動方針..... P19

・専門委員会

・部会

・支部

資料 2. CIEC 活動報告..... P30

2025 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会議案書

第 1 号議案：2024 年度事業報告と 2025 年度事業計画承認の件

1996 年 7 月に設立された CIEC は、2013 年 6 月から一般社団法人 CIEC として、設立以来の目的を引き継ぎながらこの 10 年あまりの間活動してきました。本議案では、2024 年度の事業報告と 2025 年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会等の活動報告は、それぞれの委員会や部会報告等にゆだね、ここでは全体に関わる 2024 年度の取り組みの要点と 2025 年度事業方針について記します。

1. 学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIEC は 1996 年 7 月にコンピュータ利用教育協議会として設立され、2013 年 6 月に一般社団法人 CIEC となり、教育と学びにおけるコンピュータおよびネットワークの利用のあり方等を研究し、その成果を広く普及するとともに交流する活動を続けてまいりました。

2020 年代半ばにおいてこうした領域を考え、実践するうえで生成 AI は避けて通れないトピックです。2024PCC のテーマ「より良い世界のための新たな教育を目指して」を受け、2025PC カンファレンスのテーマは「教育・学習における常識の革命」です。これらは教育・学習が生成 AI と今後どのように向き合うのか、をみなさんと考えるための機会になればと思います。

メディア論の考え方の中に新たな情報技術やテクノロジーが一方的に人間や社会に影響を与える「技術決定論」というものがあります。その一方でメディアを情報技術の側からだけではなく、人間や社会の側からとらえる「ソシオ・メディア論」というものがあります。これは人間側の使い方や社会のいろいろな制度やシステムとも絡まったりしながら情報技術やテクノロジーが展開していくという考え方です。そのなかで情報技術やテクノロジーが単純に「福音をもたらす」ものでもなく、メディア害悪論に見られるような「悪者」でもなく、私たちが「批判的」にメディアの表現や実践に取り組むことでその可能性を引き出すという姿勢が重要になります。例えば生成 AI が一方向的に私たちの心理や思考、学校や教育のあり方に影響を与えるのではなく、それらをまさにメディア=媒介するもの、として私たちの教育・学びをどのように展開するかを考えていく時代になっているのではないのでしょうか。

世界に目を転じるとウクライナやパレスチナをはじめとする地域では多くの人々が戦渦に苦しんでおり、また SNS 上の偽情報が社会の分断を助長するなど、テクノロジーは世界の平和や安定と決して無関係ではありません。教育は学校のなかで行われ完結するものではなく、グローバル社会にもつながっています。本学会活動における研究や交流が教育の革新に貢献するに留まらず、より広く、より良い社会の実現に寄与する力となるよう祈念します。

2. PC カンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2024PC カンファレンス(以下、2024PCC とする)」は、2024 年 8 月 17 日～19 日に東京都立大学南大沢キャンパスを会場とし、全国大学生生活協同組合連合会との共催のもと、600 名の参加者が集いました。

2024PCC のテーマは「より良い世界のための新たな教育を目指して」でした。初日には飯吉透先生(現会長)による「これからの教育・学習イノベーションを展望する ―教育格差の超越を目指して―」と題した基調講演が行われ、生成 AI の登場が教育にもたらした影響を振り返りつつ、テクノロジーと教育方法を組み合わせて教育格差といった社会課題の解決を目指す「創発的ベストミックス」の重要性が提言されました。基調講演に続くシンポジウム「より良い世界のための新たな教育のゆくえ」では、多様な視点から活発な議論が交わされました。また、分科会では、U-18 セッションの 8 件を含む 71 件の口頭発表、および 18 件のポスター発表が行われました。発表内容は多岐にわたりましたが、特に生成 AI の教育現場における利活用、データサイエンス教育の実践、学習環境の DX 推進、情報活用能力の育成といったテーマに関する研究が多く見られました。これらのセッションを通じて、参加者はそれぞれの研究成果や実践事例を共有し、新しい教育のあり方を探る有益な情報交換の場となりました。さらに、CIEC Online Café が対面で実施され、登壇者と参加者が直接対話できる貴重な交流の機会となりました。

「2025PC カンファレンス」は鹿児島大学郡元キャンパスで、8 月 21～23 日に開催予定です。全体テーマは、「教育・学習における常識の革命」です。基調講演では九州大学の島田敬士先生をお招きします。近年、教育・学習の在り方は大きく変化しつつあります。個別最適化された学習支援、組織全体の教育設計、さらには教育政策の策定に至るまで、データと AI の活用が不可欠になっています。本講演では、学習分析(ラーニングアナリティクス)を軸に、ミクロ(個人レベルの学習活動)とマクロ(組織や長期間にわたる学習支援)の視点を統合しながら、データと AI がもたらす教育の未来を展望します。ミクロの視点では、個々の学習データを活用し、リアルタイムで適切な学習支援を行う AI 技術やデータ駆動型の学習環境、そして生成 AI を活用したパーソナライズドな学習支援について紹介します。マクロの視点では、長期間にわたる学習データの蓄積と分析を通じて、教育機関全体のパフォーマンス向上や学習環境の最適化を目指す取り組みに加え、個人の学習を科目横断的に捉え、入学から卒業までの時間縦断的な支援を実現するための手法についても考察します。

シンポジウムでは「学びの変革と支援の可視化から何が見えてくるか?」と題し、基調講演を踏まえて、ラーニングアナリティクス等の手法による学びの可視化から、新たな可能性や課題として何が見えてくるか、AI・VR/MR・データサイエンス・オンライン教育などを用いた革新的な教育・学習の最先端事例の報告・振り返りを行いつつ、探究する予定です。ぜひ「教育・学習における常識」として何を提起できるかについて俯瞰的に模索する機会になればと思います。

3. みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会／部会／支部の活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の 4 つの委員会が理事会のもとに置かれています。

研究委員会は、自ら CIEC 研究会の企画実施を担当するとともに、各部会等が開催する研究会の調

整・管理を行っており、今年度も研究大会として2025年3月24日東京理科大学にて「CIEC 春季カンファレンス」を開催し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol.16」を刊行しました。春季カンファレンスは、2024年度よりU-18セッションも含め対面での開催となりましたが、オンラインでの発表も選択できるようにしています。

会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ&エデュケーション』の編集を担当し、57号と58号を刊行しました。会誌49号からオンライン投稿・査読システム Editorial Managerを導入し、継続して運用しています。

広報・ウェブ委員会はCIECの広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2024年度は、例年と同じくCIEC公式サイトおよびSNSツールの運用や、2025PCC公式サイトの4月の公開と運用を続けています。それに加え、中期活動計画のワーキングチームとの連携として、特に「学会及び大会名称の変更」に関する会長動画のCIEC公式サイト(会長ページ)への掲載などを行いました。

国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、研究会の開催等を通じて情報提供をすすめております。2024年度は2025年1月26日(日)「コロナ禍における英国大学の取り組み:“Be Safe, Be kind, Belong at Bath”バース大学を例として」というテーマの研究会をZoomで開催しました。また2025年6月8日(日)東京理科大学井神楽坂キャンパスにおいて、「16歳未満SNS利用規制の是非と影響:オーストラリアの挑戦を基点に、世界の未成年者保護と日本の教育の未来を探る」というテーマで、小中高部会と共催の対面の講演会を開催しました。

部会は、会員の自発的な組織として始まり、小中高部会、生協職員部会、数理・データサイエンス・AI教育研究部会(MDASH研究部会)、教育実践イノベーション研究部会が活動を展開しています。

小中高部会は関東、関西、北海道の3地区に拠点を拡大して活動をすすめ、PCカンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、一昨年からの新たな試みである、小規模でインフォーマルな気軽に参加できる会としての「CIEC サタデーカフェ」の開催が2025年6月には40回を超え、継続的に開催されています。

生協職員部会は、教育・研究に貢献する生協事業の可能性を追求する研究会、教職員・学生・生協職員の年代や立場を超えた相互に学び合えるネットワークづくりなど、多様な活動をすすめています。2024PCCでは「大学生協が取り組む学生主導の学び合いとコミュニティ再形成について」と題したセミナーを開催し、大学生協が実施する具体的な事例を紹介し、参加者に新たな教育方法やコミュニティ形成のアイデアを提供し、生協職員ではなく、学生自身が自主性をもって取り組んでいる事例や、自発的にコミュニティ形成が生まれる事例や課題について議論しました。

数理・データサイエンス・AI教育研究部会(MDASH研究部会)は2024PCCではセミナー「大学教育学習における生成AIの利活用」を実施し、また2025年3月27日には同志社大学東京サテライトキャンパスセミナー室およびオンライン(zoom)のハイブリッド形式で「教育現場における生成AIの活用」と題した研究会を開催しました。

教育実践イノベーション研究部会は「探究型学習の時代だからこそ、探究する教育者を！」をモットーに2024年11月に部会として立ち上げられました。Scholarship of Teaching and Learningや相互研修型FDの理念と方法に基づき、教育現場で育まれたテクノロジーを活用した教育・学習に関する豊かな知見やノウハウを可視化・共有・公開することを通じて、教育実践コミュニティの持続的進化とCIEC発で

広く社会に教育貢献を図ることを目的としています。今後、関連した研究会やセミナーを企画しています。

支部は CIEC の地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の2つが活動しています。北海道支部では、2024年12月7日に、酪農学園大学で「AI時代の学びの変革」をテーマに PC カンファレンス北海道を開催しました。また「PBL with FileMaker キャンパスプログラム を考える事例研修合同ミーティング」開催の後援を行いました。九州支部では、2024年11月16、17日に長崎大学文教キャンパスで、テーマを「Digital×社会×教育～長崎からの新たな発信～」として、約150名の参加を得て開催されました。

4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度621名(2025年4月)となりました。近年は個人会員数が減少傾向にありますが、これに歯止めをかけられるよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PC カンファレンスや研究会等への未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また、団体会員は73団体(2025年4月)であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設等、団体会員とのコラボレーションを追求します。

5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっております。会誌編集の進捗管理をオンラインで行う投稿審査システムを導入し、査読も確実に運営され、年2回の会誌発行を順調にすすめております。最新号を除く会誌は、J-STAGE で公開されており、最新号も発行の6か月後には公開されます。

また、Facebook、Twitter の CIEC 公式 SNS での情報発信を強化し、CIEC ホームページも内容も随時更新することにより、ニューズレターの他、各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

さらに、CIEC 会員へのインタビューや対談、学びに役立つサービスの紹介などをお届けしている CIEC ホームページの「Special」では、これまで、会長発信企画「会長インタビュー」、各種表彰受賞者インタビューなどを発信してきました。その一部は、YouTube の CIEC 公式チャンネル(一般社団法人 CIEC)において、動画配信を行っています。今後、さらに充実させていく予定です。

6. 財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、団体会員の退会が続いており、一般会員数も減少傾向が続いておりますが、特に COVID-19 感染拡大以降の企業等の大幅な減収減益は、団体会員の動向にも、大きな影響を及ぼしつつあると考えられます。非常に困難な局面ではありますが、引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。

教育に関心のあるさまざまな個人や団体、企業に会員になってもらい、CIEC の場を通じて学び、交流することで、個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進等で収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。

また、終身会員制度について、メンバーズコメントの手続きを経て、永年会員への感謝と、学会活動へ

の参加継続のため、終身会員制度の導入し、運用しています。

社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図り、CIECの活動収支については厳密な運用管理と定期の会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。また、D&Iの観点からも女性役員の拡充に向けて努力しています。

日常的な CIEC 活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2025 年度においても引き続き、メールによるコミュニケーションから、Slack などの新しいコミュニケーションツールの活用をすすめ、法人としての効率的な事務局活動を進めます。

以上

第2号議案：2024年度決算報告承認の件

CIEC2024年度財政報告

〔概況〕

2024年度決算は経常利益が3,889,820円の赤字となりました。一部を対面で開催した会議の費用、会誌発行費用が予算を上回りました。また2023年度で約750万円を計上した、「CIEC春季カンファレンス2023」での研究発表投稿における査読に関する「調査チーム」費用の残金約330万円を2024年度に計上しています。

会費収益は個人会員数、団体会員数が大幅増加とならず、予算を下回りました。

(文中の金額は原則として1万円未満切り捨て。詳しくは損益計算書をご覧ください)

〔経常損益の部〕

I. 〔経常収益〕

1. 会費収益 953万円／予算1,060万円

- 個人会員会費収入は341万円で予算対比58万円の減(-15%)、団体会員会費収入は612万円で予算対比48万円の減(-7%)となりました。

＜会員状況＞	2024年4月1日	2025年3月31日	2025年4月1日
個人会員	659	669	621
団体会員	75	77	73

2. 財務収益 3,249円／予算2,000円

- 受取利息 3,249円

II. 〔経常費用〕

1. 事業費用 634万円／予算655万円

(1) 会議費用 110万円／予算90万円

- 対面会議の開催増により交通費等が増加しました。

(2) 会誌発行費用 356万円／予算340万円

- Vol. 57、Vol. 58を発行しました。査読システムの利用料が増加しました。

(3) 広報費用 0万円／予算10万円

(4) 研究会費用 42万円／予算50万円

- 春季カンファレンス及び第133回、134回研究会を開催し、133回研究会はオンラインで開催しました。
- 春季カンファレンス研究会論文集はPDF版のみ発行しています。
- 著作権規定の改定に伴うレビュー費用を計上しています。

(5) 調査費用 0万円／予算0万円

(6) 事業活動費用 44万円／予算25万円

- 三役会議の交通費、Slackの有料プラン利用料を計上しています。

(7) 支部活動援助金 56万円／予算61万円

- 北海道支部24万円、九州支部32万円の実績です。各支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されています。

(8) 部会活動援助金 21 万円／予算 76 万円

- ・ 小中高部会 15 万円、生協職員部会 9,576 円、数理・データサイエンス・AI 教育研究部会 5 万円の実績です。各部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されています。

(9) 学会表彰事業費 3 万円／予算 3 万円

- ・ 2024 年度は学会論文賞 1 件の実績です。

(10) 教育出版費用 0 万円／予算 0 万円

(11) 周年事業費用 0 万円／予算 0 万円

(12) PCC 支援金 0 万円／0 万円

(13) 中期活動計画調査費用 0 万円／0 万円

2. 管理費用 707 万円／予算 387 万円

(1) ネットワーク運営費 4 万円／予算 5 万円

- ・ 保守管理業者委託費、サーバー更新料、ドメイン名登録更新料(お名前.COM/日本レジストリサービス)の費用です。

(2) 事務局通信費 25 万円／予算 25 万円

(3) 事務局業務委託費 300 万円／予算 300 万円

(4) 事務用品費 10 万円／予算 15 万円

(5) 備品購入費 0 円／予算 10 万円

(6) 管理委託費 9 万円／予算 12 万円

- ・ 会計システム費用、役員登記の費用です。

(7) 雑費 23 万円／予算 37 万円

- ・ 振込や自動引き落としなどの各種手数料が主です。

(8) 予備費 0 円／予算 1 万円

(9) 租税公課 1 万円／予算 2 千円

(10) 外部委託費 332 万円／予算 0 円

- ・ CIEC 春季カンファレンス 2023 での研究発表投稿における査読に関する「調査チーム」の費用です。

〔経常外損益の部〕

III. 〔経常外収益〕

雑収入 6 万円／予算 5 万円

- ・ 春季カンファレンス参加費等です。

IV. 〔法人税等〕

7 万円／予算 7 万円

- ・ 法人住民税 7 万円です。

V. 〔当期利益金〕

- ・ 2 万円の赤字予算に対し 388 万円の赤字となりました。

以上

計 算 書 類

第 1 貸借対照表

貸 借 対 照 表 2025年6月30日現在

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	9,482,808	流動負債	5,479,839
現金及び預金	9,482,808	未払金	46,428
		前受金	5,430,000
		預り金	3,411
		負債合計	5,479,839
		(純資産の部)	
		その他	4,002,969
		正味財産	4,002,969
		繰越利益剰余金	4,002,969
		純資産合計	4,002,969
資産合計	9,482,808	負債・純資産合計	9,482,808

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型
(改訂版)」(2015年5月7日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第2 損益計算書

損 益 計 算 書

(自2024年7月1日 至2025年6月30日)

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	3,411,000	
2) 団体会員会費収入	6,120,000	
	9,531,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	3,249	
	3,249	9,534,249
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	1,102,196	
2) 会誌発行費用	3,562,044	
3) 研究会費用	422,745	
4) 事業活動費用	441,390	
5) 支部活動援助金	568,800	
6) 部会活動援助金	217,672	
7) 学会表彰事業費用	30,000	
	6,344,847	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	47,112	
2) 事務局通信費	256,197	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	107,196	
5) 管理委託費	95,380	
6) 雑費	232,367	
7) 租税公課	12,700	
8) 外部委託費	3,328,270	
	7,079,222	13,424,069
経常損失		3,889,820
(経常外損益の部)		
III 経常外収益		
1 その他経常外収益	67,960	67,960
IV 税引前当期純損失		3,821,860
V 法人税等	70,000	70,000
VI 当期純損失		3,891,860

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型(改訂版)」(2015年5月7日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第3 計算書類の注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

②資産の評価基準及び評価方法

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

2. 損益計算書に関する注記

(1) 法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

3. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかなっています。

未収金は、回収期間は1年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2025年6月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定方法については(注1)を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
①現金預金	9,482,808	9,482,808	-
資産計	9,482,808	9,482,808	-
③前受金	5,430,000	5,430,000	-
負債計	5,430,000	5,430,000	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

②前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

附属明細書（計算書類関係）

主な資産および負債の明細

(1) 現金預金 （単位：円）

内 訳	金 額
現金	195,013
当座預金 ゆうちょ銀行	3,233,236
普通預金 りそな銀行	2,935,781
普通預金 中央労働金庫	1,118,778
定期預金 中央労働金庫	2,000,000
合 計	9,482,808

(2) 前受金

内 訳	金 額
次年度個人会員会費	2,550,000
次年度団体会員会費	2,880,000
合 計	5,430,000

監 査 報 告

一般社団法人 CIEC（コンピュータ利用教育学会）

監事 菅谷 克行



監事 中村 泰之



監事 一瀬 欽也



第 12 期事業年度（2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日）の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務の執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

定款及び監事が定めた監査方針に基づき、各監事は調査を行い、監査を実施しました。具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録等を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について報告を受け、また随時説明を求めました。

2. 監査の結果

- 1) 事業報告は、法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- 2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 3) 計算書類とその附属明細書は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3. 追記情報

ありません。

以 上

第3号議案：2024年度収支差額処分承認の件

2024年度利益金処分案

I 当期末処分利益金	<u>4,002,969 円</u>
II 次年度繰越利益金	<u>4,002,969 円</u>

上記のとおり、2024年度利益金は次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 C I E C（コンピュータ利用教育学会）

会長理事 飯吉 透

第4号議案：2025年度予算承認の件

2025年度予算計画

I. [経常収益について] 1,148万円

1. 会費収益 総額 1,148万円

- ・ 個人会員会費収入は 458 万円の計画とし、PC カンファレンス会場での新規加入増を見込んでいます。
- ・ 団体会員会費収入は PC カンファレンスでの「教育・IT フェア」「教育・IT フェアインデキシング」の企画で新規加入の機会増を図り 690 万円の計画としています。
(文中の金額は原則として 1 万円未満切り捨て)

2. 財務収益

- ・ 受取利息で 2 千円を計上します。

II. [経常費用について] 1,148万円

1. 事業費用 総額 760万円

1) 会議費用 85万円

- ・ オンラインでの会議開催を前提としますが、必要に応じて対面会議も実施します。
- ・ 総会費用は、15 万円を計上します。
- ・ 理事会は、11 月、3 月、6 月、8 月の 4 回分を、オンラインでの出席を前提とし、20 万円を計上しています。
- ・ 会議の開催はオンライン会議を前提とし、広報・ウェブ委員会は、5 万円を計上します。引き続き各委員会、部会、支部の WEB 担当者の会議参加を呼びかけます。
- ・ 研究委員会は 20 万円を計上します。
- ・ 国際活動委員会は 5 万円を計上します。
- ・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 10 万円を計上します。
- ・ Zoom アカウント購入費用として 10 万円計上します。

2) 会誌発行費用 340万円

- ・ 12 月の 59 号、6 月の 60 号発行費用全体で 340 万円を計上します。(取材・送料込)。
- ・ 会誌発行費用には JSTAGE への投稿デジタルデータ作成費用 5 万円、オンライン投稿システム費用として 30 万円が含まれます。
- ・ オンライン投稿システム費用の内訳は年間サポート (130,000 円) と利用料 (@4,000 円×40 本程度) です。

3) 広報費用 10万円

- ・ HP 構築運用費として 10 万円を計上します。

4) 研究会費用 50万円

- ・ 研究会費用は 1 回上限 15 万円です。
- ・ 春季カンファレンスの会場費、論文賞賞金、JSTAGE への投稿デジタルデータ作成費用等を計上しています。

5) 調査費用 0万円

- ・ 2025 年度は調査を行いません。

6) 事業活動費用 25万円

- ・ 三役会議は、15 万円計上します。通常の三役会議はオンラインで行い、対面会議は理事会と同日開催とし、臨時開催費用 1 回分を計上します。
- ・ 事業委託費 (電子証明書費用) は 10 万円を計上します。

7) 支部活動援助金 65 万円

- ・支部活動を保障する予算を 65 万円計上します。北海道支部 29 万円、九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業（地域 PCC、研究会など）を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。

8) 部会活動援助金 82 万円

- ・部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を 82 万円計上します。小中高部会 60 万円、生協職員部会 12 万円、数理・データサイエンス・AI 教育研究部会 10 万円です。

9) 学会表彰事業費用 3 万円

10) 教育出版費用 0 万円

- ・以前抜き刷り費用を別に計上しておりましたが現在は受取金額と相殺のため計上しません。

11) 周年事業費用 100 万円

- ・30 周年記念事業の費用として 100 万円を計上します。

12) PCC 支援金 0 万円

- ・今期は計上いたしません。

2. 管理費用 総額 388 万円

1) ネットワーク運営費 5 万円

- ・サーバ更新料、ドメイン更新費

2) 事務局通信費 25 万円

3) 事務局業務委託費 300 万円

4) 事務用品費 15 万円

5) 備品購入費 10 万円

6) 管理委託費 2 万円

- ・システム運用費用として 2 万円を計上します。

7) 雑費 30 万円

- ・振込、自動引き落とし、各種発行手数料などの費用として 30 万円を計上します。

8) 予備費 1 万円

9) 租税公課 2 千円

以上

一般社団法人CIEC2025年度予算案

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,580,000	
2) 団体会員会費収入	6,900,000	
	11,480,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	2,000	
	2,000	11,482,000
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	850,000	
2) 会誌発行費用	3,400,000	
3) 広報費用	100,000	
4) 研究会費用	500,000	
5) 調査費用	0	
6) 事業活動費用	250,000	
7) 支部活動援助金	650,000	
8) 部会活動援助金	820,000	
9) 学会表彰事業費用	30,000	
10) 教育出版費用	0	
11) 周年事業費用	1,000,000	
12) PCC支援金	0	
13) 中期活動計画調査費用	0	
	7,600,000	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	50,000	
2) 事務局通信費	250,000	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	150,000	
5) 備品購入費	100,000	
6) 管理委託費	20,000	
7) 雑費	300,000	
8) 予備費	10,000	
9) 租税公課	2,000	
10) 外部委託費	0	
	3,882,000	11,482,000
3 財務費用	0	
1) 支払利息	0	
経常損失金		0

資料 1：専門委員会、部会、支部 2024 年度活動報告と 2025 年度活動方針

※敬称略にて作成しています。

会誌編集委員会

1. 2024 年度活動報告

- (1) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」57 号（2024.12.1）を発行しました。
 - ・ INTERVIEW 「新会長に聞く」
飯吉透さん（CIEC 会長/京都大学学術情報メディアセンター教授）に聞く／寺尾敦編集委員長
 - ・ 特集「VR・メタバースが創出する新たな教育空間」：4 本／特集担当：矢野浩二郎編集委員
 - ・ 2024PC カンファレンス報告「より良い世界のための新たな教育を目指して」
 - ・ 研究論文 1 本／実践論文 4 本／研究ノート 1 本／実践報告 2 本／本の紹介※特集を除く一般投稿は 11 本で採択されたものは 8 本、採択率は 73%でした。
- (2) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」58 号（2025.6.1）を発行しました。
 - ・ INTERVIEW：「初めての大学入学共通テスト「情報 I」を終えて－予備校の立場からの評価－」
加賀健司さん（河合塾講師）に聞く／寺尾敦編集委員長
 - ・ 特集「「情報 I」共通テスト元年－教育現場の実践と朝鮮の記録－」：5 本／特集担当：吉田賢史編集委員
 - ・ 研究論文 3 本／実践論文 5 本／研究ノート 1 本／ソフトウェアレビュー 1 本※特集を除く一般投稿は 16 本で採択されたものは 10 本、採択率は 63%でした。
- (3) 会誌編集委員会を、以下の日程（会場）で開催しました。
 - 第 92 回：2024 年 8 月 19 日（東京都立大学南大沢キャンパスおよび WEB 会議システムによるハイブリッド会議）
 - 第 93 回：2024 年 11 月 10 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）
 - 第 94 回：2025 年 4 月 13 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）
- (4) 2024PC カンファレンスで、セミナー「入門：論文執筆・効果的なプレゼン－U-18セッションのさらなる活性化に向けて－」を、小中高部会と共同で開催しました。趣旨説明：中村泰之（名古屋大学）パネリスト：寺尾敦（青山学院大学）・吉田賢史（早稲田大学高等学院）
- (5) 会誌 49 号からオンライン投稿・査読システム Editorial Manager を導入し、継続して運用しています。

2. 2025 年活動方針

- (1) 会誌『コンピュータ&エデュケーション』59 号および 60 号を刊行します。昨年度に引き続き『コンピュータ&エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指します。「本の紹介」については、従来と同様に理事会メンバーの積極的な投稿をお願いします。
- (2) 本格運用を開始したオンライン投稿・査読システム Editorial Manager（会誌第 49 号より導入）について、適宜検証を行い、必要に応じてシステムの改善を図ります。
- (3) 会誌編集委員会を年 3 回程度開催する予定です。
- (4) より質の高い論文等の投稿が増えるよう、2025PC カンファレンスにてセミナーを開催します。タイトル「論文執筆における生成 AI の利用－基本原則を定めるための議論－」
- (5) 巻頭インタビューについては、これまでと同様に CIEC 団体会員をはじめ、団体会員外企業等にも積極的にインタビューを依頼し、CIEC への理解を深めることを目指します。会誌の特集に関連するテーマ・トピックも考慮しながら、各種ソフトウェア・システム等を有効に活用している実績のある個人についても、インタビューの対象としていきます。

(6) 学会賞選考委員会に会誌編集委員会として協力します。

広報・ウェブ委員会

1. 2024 年度活動報告

広報・ウェブ委員会は、CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2024 年度は、例年と同じく CIEC 公式サイトおよび SNS ツールの運用や、2025PCC 公式サイトの 4 月の公開と運用を続けています。それに加え、中期活動計画のワーキングチームとの連携として、特に「学会及び大会名称の変更」に関する会長動画の CIEC 公式サイト（会長ページ）への掲載などを行いました。

2. 2025 年度活動方針

2025 年度は以下のような方針を念頭に活動を行います。

- (1) CIEC 公式サイトや SNS を用いた積極的な情報発信
- (2) 広報 Web 委員会としての組織的（チーム的）運営体制の構築

まず項目 (1) について。

CIEC の公式サイトは各委員会が情報発信を自ら行うという体制が構築された。委員会内での委員の交代などに伴う引き継ぎによりサポートが必要な面はあるものの、概ね定着しつつあると考える。他方、SNS についてはタイムリーな発信ができていない面があり、広報 Web 委員会として情報発信に向けた体制づくりが必要になると考える。

次に、項目 (2) について。

上記項目 (1) とも関係するが、広報 Web 委員会の業務はアカウントの管理（ID やパスワード）と不可分の所があり、その秘匿性の観点から属人的になりやすい側面がある。他方、今後の運営を考えた場合、どう組織的に運営していくのかを考えることは継続性の観点から重要だと考える。ついては、具体的にどのような体制を構築し、運営していくのが望ましいのかを活動を行いながら検討していきたい。

国際活動委員会

1. 2024 年度活動報告

以下の 2 つの研究会を企画・運営した。

- ・ 2025 年 1 月 26 日（日）「コロナ禍における英国大学の取り組み：“Be Safe, Be kind, Belong at Bath” バース大学を例として」というテーマの研究会を Zoom で開催した。獨協大学の李 凱先生が、2023 年 3 月 31 日～2024 年 3 月 30 日の英国バース大学での研修体験を基に、コロナ禍における英国大学の取り組みについて講演を行った。参加者からコロナ禍における学生の状況、大学の地域貢献活動、著作権に関する対応などについて質問があった。また、英国の大学の取り組みについて、日本との違いや共通点など、様々な感想が述べられた。特に、大学の地域貢献活動や学生への支援体制の日本との違いについて活発な意見交換が行われた。
- ・ 2025 年 6 月 8 日（日）東京理科大学神楽坂キャンパスにおいて、「16 歳未満 SNS 利用規制の是非と影響：オーストラリアの挑戦を基点に、世界の未成年者保護と日本の教育の未来を探る」というテーマで、山梨大学の稲垣俊介先生をお招きし、小中高部会と共催の対面の講演会を開催した。オーストラリアで導入された「16 歳未満」の SNS 利用を法的に制限する動きの背景を出発点とし、この具体的な年齢設定が青少年の健全な育成と SNS のリスク管理、そして情報リテラシーや批判的思考力の育成機会にどのような影響を与えるのかを多角的に議論した。

講演者から SNS を「自分ごと」として学ぶためのサイクルについての提案があり、生徒・保護者・教員のそれぞれの視点から、どのような教育を用意すべきかについて活発な意見交換が行われた。

2. 2025 年度活動方針

CIEC 会員が海外の教育関連情報を収集することができるように支援し、その環境構築に向けた立案企画を行う。具体的には、下記のような活動を模索し、研究会や PCC 等につなげる。

- ・ 米国の ICT 環境と教育：2023 年 6 月 25 日に行われた研究会の講師である米国 UCOM 社 Faustino Hernandez 氏との関係を継続し、発展した研究会さらには、相互訪問等のチャンスを探る。
- ・ 2024 年 6 月 9 日に行われた Camtree の主任ディレクターパトリック・カーマイケル博士との関係を継続していく。
- ・ 韓国高麗大学の李研究室：以前行ったような日韓相互訪問などで関係を継続していく。両国の ICT 教育について共同研究を展開する。
- ・ 諸外国の教育状況調査：上記以外における教育 DX や情報教育の動向の情報収集ならびに調査研究などを計画する。

研究委員会

1. 2024 年度活動報告

研究委員会は、会員相互の研鑽と交流の機会創出を目的とした研究会の企画・運営を行っています。また、本委員会が主催する春季カンファレンスを定期的に開催しており、会員が研究発表・議論を行う機会を広く提供しています。2024 年度は当初の活動方針に従って、以下の活動をしました。

- (1) 今年度企画された CIEC 研究会（第 133～134 回）について、企画・運営計画や実施状況などについて確認し、Web や ML にて告知をおこないました。
- (2) 「CIEC 春季カンファレンス 2025」を開催し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol. 16」（電子版）を刊行しました。今回から U-18 も対面発表で開催しました。（選択で U-18 はオンライン発表もあり）

● 開催概要と論文数

日程：2025 年 3 月 24 日（月）

会場：東京理科大学 森戸記念館

発表件数：

- ・ 一般論文（査読付）発表：11 件（論文 4、速報論文 7 件）

※応募 12 件 採択 11 件 採択率 92%

- ・ ショートペーパー（査読なし）発表：1 件
- ・ U-18 論文発表（概要審査）：7 件

参加者：合計 47 名

● 表彰

査読付論文を対象とした論文賞 1 件、U-18 発表論文を対象とした U-18 最優秀賞 1 件、U-18 優秀賞 1 件、U-18 奨励賞 3 件が、各賞の表彰となりました。当日は、発表者・参加者の皆さまのご協力のもと、活発な質疑応答や議論が交わされ、大きなトラブルも無くスムーズにプログラムを進行できました。CIEC 春季カンファレンス 2024 に関わってくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。

表彰：

◎論文賞：

- ・ 徳竹圭太郎（東京科学大学）：「コンセプトマップを用いた学習における創発的な対話を促進するグループ編成支

援システムの構築」

◎U-18 最優秀賞：

- ・黒木勇人（早稲田大学高等学院）：「ドローンによる医療物資配送の最適化 - ESP32 の活用による専門知識・パイロットを必要としない高度・安価な自動配送飛行技術の開発 -」

◎U-18 優秀賞：

- ・田口世南・早川葵（池田学園池田高等学校）：「九州のゲンジボタルを調査してわかった 4 つの明滅周期」

◎U-18 特別賞：

- ・阿部恵睦（市川市立稲荷木小学校）：「アナログ文房具とデジタル文房具の比較実験 - 僕に合うベストな使い分けは? -」

● 査読のプロセスの改善

学会の新しい著作権規定を採用しました。5 ページの査読者向けの「一般論文査読の方針」を作成しました。

● ML 中心のコミュニケーションをスラック中心のコミュニケーションに変更しました。

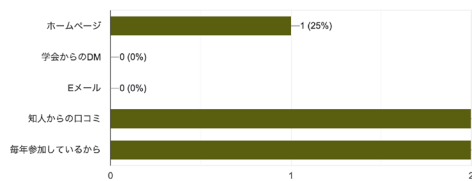
レスポンスが早くなり良いが、無料版なので古い書き込みが読めなくなるので、今後検討したい。

● U-18 参加者向けにアンケートを実施

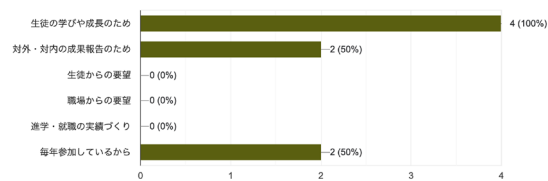
2024 年と 2025 年の全参加者が「参加して良かった」、「論文執筆能力が学生に得たもの」と感じています。

———2024 のアンケート結果———

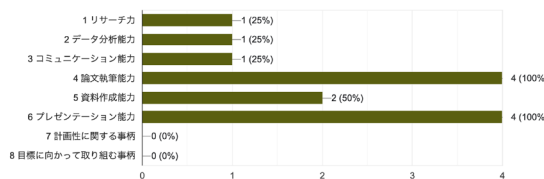
今回のカンファレンス開催を何で知りましたか（複数回答可）。
4 件の回答



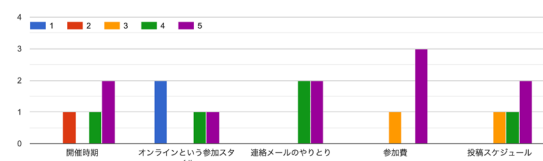
今回のカンファレンスに参加した理由は何ですか（複数回答可）。
4 件の回答



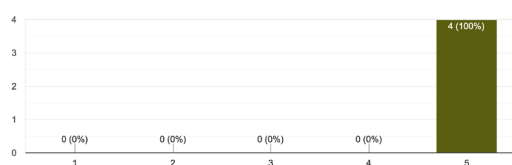
カンファレンスを通じ、参加生徒が得たと思うものについて教えてください（複数回答可）。
4 件の回答



今回のカンファレンス参加を通じ、以下の点についてどの程度適切であったか評価をお願いします。

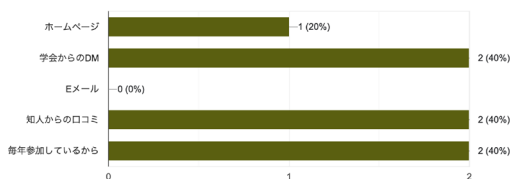


総合的に見て、今回、カンファレンスに参加してよかったと思いますか。
4 件の回答

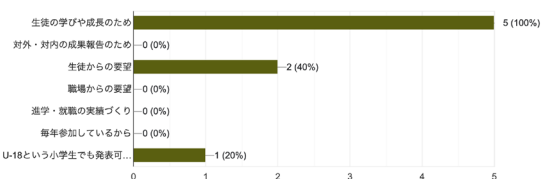


2025 のアンケート結果

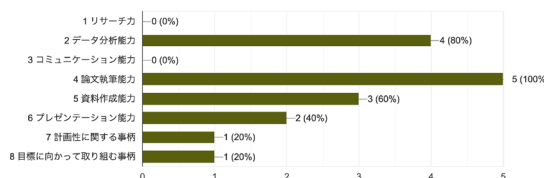
今回のカンファレンス開催を何で知りましたか（複数回答可）。
5 件の回答



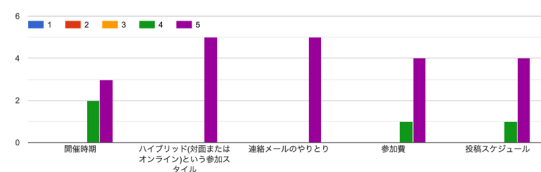
今回のカンファレンスに参加した理由は何ですか（複数回答可）。
5 件の回答



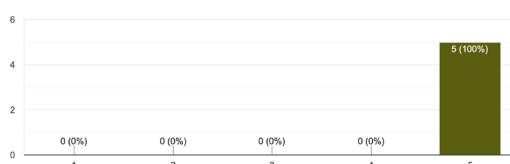
カンファレンスを通じ、参加生徒が得たと思うものについて教えてください（複数回答可）。
5 件の回答



今回のカンファレンス参加を通じ、以下の点についてどの程度適切であったか評価をお願いします。



総合的に見て、今回、カンファレンスに参加してよかったと思いますか。
5 件の回答



● 研究委員会の開催

2024 年 9 月 27 日	ZOOM による遠隔会議
2024 年 12 月 8 日	杉並会館で対面
2025 年 2 月 12 日	ZOOM による遠隔会議
2025 年 2 月 18 日	ZOOM による遠隔会議
2025 年 3 月 19 日	ZOOM による遠隔会議

● CIEC 春季カンファレンス 2025 論文集の J-STAGE への登録

現在、登録中です。

※過去の研究会論文を J-STAGE に掲載を検討し、日頃利用している業者の見積もりが高額で、業者の選定や方法などを検討しています。

2. 2025 年度活動方針

(1) 春季カンファレンスについて、以下の点を検討します。

- ・ 開催日程、会場、開催方法などについて、検討します。
- ・ 査読ありの一般論文の投稿規定や査読体制を明瞭化に向けて、より検討を進めます。
- ・ 参加者増に向けて、他の委員会や部会との連携も視野にいれ開催方法を検討します。

(2) 春季カンファレンスの他、CIEC で開催される各種研究会や研究交流会の企画・運営案などを確認・承認し、広報・ウェブ委員会と連携しながらより一層の周知拡大を目指します。

(3) 春季カンファレンスと、夏の PC カンファレンスや、会誌などと共通する事柄など、すり合わせ共通可能な部分は、歩調を合わせていきたいと考えています。特に小中高部会と連携し U-18 発表の方法や表彰など、より検討を進める予定です。

小中高部会

1. 2024 年度活動報告

(1) 2024PC カンファレンス (東京都立大学) の運営協力

- ・分科会発表 : U-18 部門にかかる発表支援、運営、審査協力
- ・セミナー 8 月 19 日 (月) 14:15~15:55 (編集委員会との共催)

セミナーテーマ : 入門 : 論文執筆・効果的なプレゼン ―U-18 セッションのさらなる活性化に向けて―

1. 効果的なプレゼン入門 (早稲田大学高等学院・吉田賢史)

(2) 研究会 (1 回)

① 第 134 回研究会 (小中高部会・国際活動委員会共催)

テーマ : 16 歳未満 SNS 利用規制の是非と影響: オーストラリアの挑戦を基点に、世界の未成年者保護と日本の教育の未来を探る

開催日 : 2025 年 6 月 8 日 (日) 13:30 - 15:30

場所 : 東京理科大学 神楽坂キャンパス 132 番教室

講師 : 稲垣 俊介氏 (所属: 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター准教授)

(3) CIEC サタデーカフェの開催及び運営

第 34 回 : 2024 年 7 月 20 日 (土) 20:00 - 21:00

テーマ : データサイエンスコース開設とその学び

話題提供者 : ドウラゴ 英理花 氏 (聖徳学園中学・高等学校)

第 35 回 : 2024 年 9 月 21 日 (土) 20:00 - 21:00

テーマ : デジタル採点システムで採点業務を効率化

話題提供者 : 藤井 剛司 氏、浦谷 幸平 氏 (スキヤネット株式会社)

第 36 回 : 2024 年 10 月 19 日 (土) 20:00 - 21:00

テーマ : わからない時に「わからない」と言える心理的安全性の高い学びの場作りを目指して

話題提供者 : 大脇 巧己 氏 (一般社団法人さんびいす)

第 37 回 : 2025 年 1 月 25 日 (土) 20:00 - 21:00

テーマ : 共通テスト「情報Ⅰ」を振り返る

話題提供者 : 稲垣 俊介 氏 (山梨大学教育学部附属教育実践総合センター准教授)

第 38 回 : 2025 年 2 月 22 日 (土) 20:00 - 21:00

テーマ : zoom 飲み会から始まった教員ネットワークの作り方 ~コロナ禍でも学びを止めない~

話題提供者 : 柴田 功 氏 (神奈川県立上鶴間高等学校 校長)

第 39 回 : 2025 年 4 月 19 日 (土) 20:00 - 21:00

テーマ : コンピュータ利用教育と CIEC の未来

話題提供者 : 飯吉 透 氏 (京都大学 学術情報メディアセンター・教育学研究科 教授/CIEC 会長)

(4) その他

- ・CIEC 春季カンファレンス 2024 小中高生参加協力

2. 2025 年度活動方針

- ・大学入試共通テストへの「情報Ⅰ」の導入について～「情報Ⅰ」のあり方と「情報Ⅱ」の実施について考える～

高等学校では 2022 年度から共通教科「情報」の科目が「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」に再編され、2025 年度入試より大学入試共通テストにおいて「情報Ⅰ」が導入された。高等学校の現場ではすでにこれを意識した

「情報Ⅰ」の教育がなされている。「情報Ⅰ」の教育の今後のあり方や「情報Ⅱ」の実施について考察し、理解を深めていきたい。

・ 小中高におけるデータサイエンス教育について

現在、小中高校では社会の変化を受けて、統計教育やデータサイエンス教育領域が注目を浴び、新指導要領でも大きく取り扱われている。データサイエンスを扱う学科の設置や総合的な探究の時間でのデータサイエンス教育の取り扱いなどの変化が起こりつつある。しかし、実際にデータの収集から行い、分析、対策、評価という一連のプロセスにおいて、それらを指導することに戸惑いを持つ現場の教員の声も多く出ている。様々な現状を踏まえ、現場での統計教育及びデータサイエンス教育の今後のあり方や高大連携を見据えた取り組みについて、議論していきたい。

・ 生成 AI (人工知能) の教育的利用について

ChatGPT の流行に代表されるように、生成 AI (人工知能) はすでに我々の生活空間に共存していると言っても過言ではない状態になっている。教育の現場では、生成 AI を利用して学習者の「学び」を深めることが期待されている一方で、社会でも生成 AI をどのように利用すべきかが課題となっている。本部会では、生成 AI と教育の関わりについて様々な観点から整理し、今後の課題について議論を進めていきたい。

具体的な活動

- (1) 研究会の実施（基本的には対面で行うことを視野に入りたいがオンラインの可能性もあり。）
 - ・ 大学入試共通テストへ「情報Ⅰ」の実施について
 - ・ 小中高におけるデータサイエンス教育について
 - ・ 生成 AI (人工知能) の教育的利用について
- (2) 2025PC カンファレンス（鹿児島大学）への協力
- (3) CIEC サタデーカフェの運営
- (4) 北海道地区において、PC カンファレンス北海道などに参加・協力・学習会の実施
- (5) 世話人会の実施（年 3 回、北海道・関東・関西等で開催予定）
- (6) 国際活動委員会との連携
- (7) MDASH (数理・生成 AI・データサイエンス) 部会との連携
- (8) 研究委員会との連携
- (9) プロジェクトへの協力

生協職員部会

1. 2024 年度活動報告

(1) 研究会/企画

8 月 PC カンファレンスにてセミナー実施

「大学生協が取り組む学生主導の学び合いとコミュニティ再形成について」

パネリスト

安積 采花（千葉大学 学生）

山形 ほのか（京都府立大学 学生）

大藪 束紗（立命館大学 学生）

大田原 悠太/藤川 矩英（宇都宮大学 学生）

司会 平塚 広慈（早稲田大学生生活協同組合職員・CIEC 生協職員部会）

本セミナーでは、大学生協が実施する具体的な事例を紹介し、参加者に新たな教育方法やコミュニティ

形成のアイデアを提供。生協職員ではなく、学生自身が自主性をもって取り組んでいる事例や、自発的にコミュニティ形成が生まれる事例や課題について議論した。

(2) 世話人会（主に関東地区職員にて実施）

2024/6/5 7/2 8/7 2024PC カンファレンスセミナー打合せ

8/19 PCC 当日打合せ/セミナー運営

2. 2025 年度活動方針

- (1) 2025 年 PC カンファレンスにて開催予定のセミナー「大学生協が担う ICT 教育を多角的に見つめなおす」にて多くの立場より大学生協の教育を考え直す機会を構築する
- (2) 大学生協の立場として、大学・小中高をはじめとする現場の ICT 教育についてできること、貢献するべき部分を C I E C の関わりの中で検討・調査・実践する
- (3) 引き続き生協職員の C I E C 会員の増加並びに PC カンファレンスの参加者増加につとめる。

数理・データサイエンス・AI 教育研究部会

1. 2024 年度活動報告

- (1) 2023PC カンファレンス セミナー「大学教育学習における生成 AI の利活用」
2024 年 8 月 19 日（月）12:20-14:00 に、2024 PC カンファレンス（東京都立大学 南大沢キャンパス）にてセミナー（セッション）を開催
- (2) 2024 年度セミナー——教育現場における生成 AI の活用——
2025 年 3 月 27 日（木）14:00-15:30 に、同志社大学東京サテライトキャンパスセミナー室およびオンライン（zoom）のハイブリッド形式で研究会を開催
- (3) 世話人会（オンライン）の開催
2025 年 2 月 17 日（月）08:00-2 月 24 日（月）23:55 に世話人会をオンライン（メール審議）で開催。

2. 2025 年度活動方針

- ・大学における数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度の実施状況について

文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に関して、多くの大学で全学教育として数理・データサイエンス・AI 教育が導入されつつある。その導入方法や内容についても多種多様であり、これらの情報共有は有意義である。このことを受け、昨年度に引き続き、本研究部会では実施状況を検証しつつ、各大学での導入事例等の情報共有を行う。

- ・新課程における数理・データサイエンス・AI 教育の展開

初等中等教育における学習指導要領の改訂により、新しい内容での入学試験が 2025 年度入試から導入された。関連学会等でも議論し始めているが、本研究部会でも引き続き、これらの内容に対する共通テストにおける数学や情報での問題作成の方向性や試作問題等を踏まえた各学校での対応状況や大学における新しい入試形態等の対応について情報共有を行う。また小学校・中学校での全国学力・学習状況調査におけるデータの分析に係る出題問題等に触れ、小中高との体系的な学びについても議論する。

- ・生成 AI を活用した数理・データサイエンス・AI 教育の構築

昨今、急激に導入されつつある生成 AI を用いた数理・データサイエンス・AI 教育分野への適用について、その実態を把握しながら、今後の活用についても議論する。合わせて利活用に関する際の注意事項や課題についても議論を行う。

具体的な活動

- (1) 2025 PC カンファレンス（鹿児島大学 郡元キャンパス）でセミナーの実施
- (2) 研究部会の実施（冬季開催）
- (3) 世話人会の実施（年 2 回）
- (4) 関連学会・研究会との連携した情報共有
- (5) ウェブサイトでの情報発信

教育実践イノベーション研究部会

1. 2024 年度活動報告

教育実践イノベーション研究部会は、「探究型学習の時代だからこそ、探究する教育者を！」をモットーに、Scholarship of Teaching and Learning や相互研修型 FD の理念と方法に基づき、教育現場で育まれたテクノロジーを活用した教育・学習に関する豊かな知見やノウハウを可視化・共有・公開することを通じて、教育実践コミュニティの持続的進化と CIEC 発で広く社会に教育貢献を図ることを目的としています。2024 年度は、11 月に世話人を中心として部会が立ち上げられ、今後の活動目的・内容として、以下が設定されました。

- ・ CIEC ウェブサイト・SNS 等を通じて、通年で様々な実践や研究・開発から得られた成果や知見を精力的に発信・共有
- ・ CIEC の年次大会である PC カンファレンスや春季カンファレンス等においてセミナーやワークショップを開催
- ・ 年に数回、研究会を開催

2. 2025 年度活動方針

本部会立ち上げ時に設定された活動目的・内容を踏まえ、部会として PC カンファレンス 2025 のイブニングセッションを企画・実施します。セッションの企画内容は、以下の通りです。

テーマ：

日常的な教育実践の可視化と共有から始める「教育・学習における常識の革命」

概要：

本イブニングセッションでは、基調講演とシンポジウムを踏まえ、CIEC の新部会「教育実践イノベーション研究部会(CIECers)」の協力のもと、テクノロジーを活用した日々の教育実践の可視化と共有を通じて、今年の PCC テーマである「教育・学習における常識の革命」をどのように引き起こしていくかについて、参加者の教育・学習経験や知見・アイデアをベースにディスカッションを深め、今後の教育改善・教育革新に役立つ考え方や指針を模索します。さらに、AI、オンライン教育、シミュレーション、VR・XR など、様々なテクノロジーが台頭し社会が大きく変容し続ける中で、教育実践コミュニティとしての CIEC が、どのようにテクノロジーを活用した新たな学び方や教え方を創発・進展させ、教育イノベーションとして広く社会に貢献していけるかを考える場できればと思っていますので、是非多くの皆さんにご参加いただければ幸いです。

これに加え、2025 年度内には、CIEC ウェブサイト・SNS 等を通じた様々な実践や研究・開発から得られた成果や知見の発信・共有や研究会の開催などを行っていく予定です。

北海道支部

1. 2024 年度活動報告

- (1) 「PC カンファレンス北海道 2024」の開催

2024 年度は、酪農学園大学を会場として「PC カンファレンス北海道 2024」を開催した。Slack による情報共

有と Zoom による実行委員会により準備を進めた。昨年に続き対面による一日開催としたが、特別講演 1 件、分科会発表 12 件であった。分科会発表中 8 件が学生発表であり、例年通り、学生プレゼンテーション賞を設定した。特別講演として、CIEC 会長 飯吉透先生にご講演いただき、参加者と活発な質疑が行われた。40 名ほどの参加者数となった。

PC カンファレンス北海道 2024

テーマ 「AI 時代の学びの変革」

日 時 2024 年 12 月 7 日（土）11 時 30 分～16 時 30 分

会 場 酪農学園大学 AI 号館（北海道江別市文京台緑町 582 番地）

主 催 PC カンファレンス北海道 2024 実行委員会

共 催 CIEC（コンピュータ利用教育学会）全国大学生協同組合連合会北海道ブロック

特別講演 「ChatGPT の衝撃！ 教育現場は生成 AI とどう向き合うのか」

講 師 飯吉透先生（京都大学学術情報メディアセンター/教育学研究科教授/CIEC 会長）

後 援 日本データパシフィック株式会社、日経 BP マーケティング、noa 出版

学生プレゼンテーション賞受賞者：公立千歳科学技術大学大学院理工学研究科 駒井叶登

『スポーツプレーヤーの自己成長支援を目的とした構造的振り返り記録システムの検討』

(2) 支部研究会の開催を予定していたが、実施には至らなかった。

(3) 他研究会開催の後援

「PBL with FileMaker キャンパスプログラム を考える事例研修合同ミーティング」開催の後援を行った。令和 6 年 8 月 8 日（木）北海道教育大学教育学部旭川校を会場にして、Clarix 社が提供するキャンパスプログラムを採用し、地域課題の解決を試行するプロジェクトベースドラーニング（PBL）を実践する教育機関（高校 2 校、大学 3 校）が集まり、取り組み事例を共有した。22 名の参加があった。

2. 2025 年度活動方針

(1) PC カンファレンス北海道 2025 の開催

2025 年度は PC カンファレンス北海道 2025 の開催を予定している。開催地は旭川、会場を旭川工業高等専門学校として調整を開始している。

会 場：旭川工業高等専門学校（旭川市春光台 2 条 2 丁目 1-6）

テーマ、開催期日等未定であるが、11 月下旬開催予定として調整中である。

(2) 支部研究会の開催

時期、会場は未定であるが研究会の開催を予定している。

九州支部

1. 2024 年度活動報告

2024 年度の九州 PC カンファレンスは、11 月 16、17 日に長崎大学文教キャンパスで、テーマを「Digital×社会×教育～長崎からの新たな発信～」として、約 150 名の参加を得て開催された。2 日間開催となるのは 2019 年に佐賀大学で開催された九州 PCC 以来である。初日の基調講演「携帯電話事業者における位置登録情報を用いた長崎県の観光分析」では、ソフトバンク株式会社 AI 戦略室 データ技術開発部の山崎耕平氏および永田拓也氏を講師にお招きし、百年に一度の変革期を迎えた長崎での「福山雅治さんの長崎スタジアムシティこけら落としライブ」の最新の分析例をお示しいただいた。つづいて、シンポジウム「長崎発！教育 DX へ向けた情報教育推進の試み」では、パネリストとして長崎県教育庁指導主事・三浦浩幸氏、長崎大学情報データ科学部・植木優夫教授、小林透教授により、実践している DX 情報教育が議論された。分科会（二日目）は 4 つに分か

れ、分科会 A、B では九州の大学・大学生協より 4 本、関東の大学より 6 本、計 10 本の発表があった。分科会「U-18」は九州 PCC では初めての試みであったが、長崎県内の SSH 校から 7 件もの発表があり、長崎県立大村高等学校の森口力君が最優秀賞を受賞した。分科会「トークセッション」は 2023 年から始まった自身でテーマを設定して意見交換をするタイプの講演であり、鹿児島大学で実施されている「GOES 留学プログラム」を題材としてこれからの海外留学について考える場となった。九州 PC カンファレンスは、大学生協の教職員活動の中から生まれ、大学生協の支援を受けて維持され、発展してきたが、今回は IT フェア（初日）に 25 社もの出展があった。

最後に、開催された「2024 九州 PC カンファレンス in 長崎大学」サイトを次に記す。< <https://coop.kyushu-bauc.or.jp/pcc2024/>>

2. 2025 年度活動方針

九州では PC カンファレンスを、ICT 教育や情報化社会について学ぶ場としてだけでなく、語学教育、協同組合活動、平和、地域の学校教育など、さまざまな学びの場と捉えている。2025 年度は、8 月に全国版の PC カンファレンスが鹿児島大学で開催されるため、九州 PC カンファレンスはお休みとなるが、8 月のカンファレンスに積極的に参加し、日頃の活動の成果を発揮したい。

情報生活サポート研究会の ICT を活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとして研究活動で、教員、生協職員、学生の協同の中での新しい時代における大学生協の役割が見えてきているところであり、今後もこの活動を推進する。その他の支部活動についても、九州 PC カンファレンスなどの会員交流機会を活かして模索することを継続する。

資料 2 : CIEC 活動報告

2024 年 7 月

- 1 日 (月) 2024 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 開催公示
2024・2025 年度役員選挙投票開始 (7 月 15 日締切)
- 2 日 (火) 生協職員部会世話人会 (オンライン)
- 20 日 (土) 小中高部会「第 34 回サタデーカフェ」(オンライン)
- 21 日 (日) 2023 年度監事会 (大学生協杉並会館)
- 22 日 (月) 2024・2025 年度役員選挙管理委員会 (オンライン)

2024 年 8 月

- 7 日 (水) 生協職員部会世話人会 (オンライン)
- 9 日 (金) 定例三役会議
- 16 日 (金) 2023 年度第 4 回理事会 (東京都立大学南大沢キャンパス・オンライン)
2024PC カンファレンス第 7 回実行委員会 (東京都立大学南大沢キャンパス・オンライン)
- 17 日 (土) 2024PC カンファレンス (東京都立大学南大沢キャンパス)
テーマ「より良い世界のための新たな教育を目指して」
- 18 日 (日) 2024PC カンファレンス (東京都立大学南大沢キャンパス)
2024 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 (東京都立大学南大沢キャンパス)
2024 年度第 1 回理事会 (東京都立大学南大沢キャンパス・オンライン)
- 19 日 (月) 2024PC カンファレンス (東京都立大学南大沢キャンパス)
会誌編集委員会 (東京都立大学南大沢キャンパス・オンライン)
- 22 日 (木) 2024・2025 年度専門委員公募開始 (9 月 15 日・30 日締切)

2024 年 9 月

- 2 日 (月) 定例三役会議
- 15 日 (日) 2024・2025 年度研究委員公募締切
- 21 日 (土) 小中高部会「第 35 回サタデーカフェ」(オンライン)
- 27 日 (金) 研究委員会 (オンライン)

2024 年 10 月

- 19 日 (土) 小中高部会「第 36 回サタデーカフェ」(オンライン)
- 28 日 (月) 定例三役会議(大学生協杉並会館・オンライン)

2024 年 11 月

- 3 日 (日) 2024 年度第 2 回理事会 (オンライン)
- 10 日 (日) 会誌編集委員会 (オンライン)
- 16 日 (土) 九州 PC カンファレンス (長崎大学)
- 17 日 (日) 九州 PC カンファレンス (長崎大学)
- 25 日 (月) 定例三役会議(オンライン)

2024 年 12 月

- 1 日 (日) 『コンピュータ&エデュケーション Vol. 57』発行
2025PC カンファレンス第 1 回実行委員会 (オンライン)
- 7 日 (土) PC カンファレンス北海道 2024 (酪農学園大学)
- 8 日 (日) 研究委員会 (大学生協杉並会館)

2025 年 1 月

- 25 日 (土) 小中高部会「第 37 回サタデーカフェ」(オンライン)
- 26 日 (日) 定例三役会議(オンライン)
2025PC カンファレンス第 2 回実行委員会 (オンライン)
第 133 回 CIEC 研究会 (国際活動委員会主催・オンライン)
テーマ:「コロナ禍における英国大学の取り組み: “Be Safe, Be kind, Belong at Bath” バース大学を例として

2025 年 2 月

- 12 日 (水) 研究委員会 (オンライン)
- 17 日 (月) MDASH 部会世話人会 (2 月 24 日までのメール審議)
- 18 日 (火) 研究委員会 (オンライン)
- 22 日 (土) 小中高部会「第 38 回サタデーカフェ」(オンライン)

2025 年 3 月

- 2 日 (日) 定例三役会議(大学生協杉並会館・オンライン)
第 3 回理事会 (大学生協杉並会館・オンライン)
2025PC カンファレンス第 3 回実行委員会 (オンライン)
- 19 日 (水) 研究委員会 (オンライン)
- 24 日 (月) 春季カンファレンス 2025 (東京理科大学・神楽坂キャンパス)
- 27 日 (木) MDASH 研究部会セミナー (同志社大学東京サテライトキャンパス)

2025 年 4 月

- 1 日 (火) 2025PC カンファレンスサイト公開
2025PC カンファレンス論文投稿受付開始 (4 月 30 日締切)
2025PC カンファレンスイブニングセッション受付開始 (4 月 30 日締切)
CIEC 学会賞公募開始 (4 月 30 日締切)
- 8 日 (火) 2025PC カンファレンス教育・IT フェア出展申込開始(5 月 27 日締切)
- 13 日 (日) 会誌編集委員会 (オンライン)
- 19 日 (土) 小中高部会「第 39 回サタデーカフェ」(オンライン)
- 20 日 (日) 定例三役会議(オンライン)
2025PC カンファレンス第 4 回実行委員会 (オンライン)

2025 年 5 月

- 11 日 (日) 2025PC カンファレンス時間割編成会議 (大学生協杉並会館)

2025 年 6 月

- 1 日 (日) 『コンピュータ&エデュケーション Vol. 58』発行
- 2 日 (月) 2025PC カンファレンス参加申し込み開始 (8 月 6 日締切)
2025PC カンファレンス論文投稿開始 (6 月 30 日締切)
- 8 日 (日) CIEC134 回研究会(小中高部会・国際活動委員会共催・東京理科大学神楽坂キャンパス)
テーマ「16 歳未満 SNS 利用規制の是非と影響：オーストラリアの挑戦を基点に、世界の未成年者保護と日本の教育の未来を探る」
- 21 日 (土) 2024 年度第 4 回理事会 (オンライン)
2025PC カンファレンス第 5 回実行委員会 (オンライン)
小中高部会「第 40 回サタデーカフェ」(オンライン)